

# いちい場通信

No.79 September, 2020

## 国際理解・国際協力のための 高校生の主張コンクール 沖縄県地方大会

新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、2020年9月12日(土)に沖縄産業支援センターで2020年度「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール 沖縄県地方大会」を実施しました。多数の応募者の中から、1次審査を通過した7名の弁士が参加しました。

過去の自分の経験や体験を基に、「国連創設100周年の2045年 よりよい未来への提案」や「国連事務総長としての提案」など、参加者一人ひとりが白熱した弁論を繰り広げました。最優秀賞を受賞した名嘉村さんの作品は、10月に東京都で開催される国連中央審査会(全国大会)へ出品されます。名嘉村さんの作品を次のページに掲載します。

### ★結果★

- 最優秀賞(沖縄県国際交流・人材育成財団理事長賞) **豊見城高等学校1年 名嘉村 真乃さん**
- 優秀賞(沖縄県高等学校文化連盟専門部 部長賞) **球陽高等学校2年 崎浜 空音さん**
- 優良賞(沖縄県人権擁護委員連合会 会長賞) **辺士名高等学校2年 梶本 凜太郎さん**
- 優良賞(沖縄県ユネスコ協会 会長賞) **開邦高等学校1年 平良 陽奈さん**

「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」  
沖縄県地方大会



「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」  
沖縄県地方大会



国際理解・国際協力のための

# 高校生の主張コンクール 沖縄県地方代表作品

最優秀賞

(沖縄県国際交流・人材育成財団理事長賞)

受賞作品

【国際社会の課題解決に国連を始めとする国際機関が果たす役割ー子供達に夢を掴む力を与えようー】



沖縄県立 豊見城高等学校 1年 名嘉村 真乃

国際社会の問題解決に必要な事は教育です。世界には読み書きができない子供達が約5,800万人いるといわれています。私達が義務教育で学校に通い、夢を目指して勉強する一方で、発展途上国の子供達は学校に通わずにそれぞれの状況で生きる為に働いています。そのような子供達にとって教育は、夢を掴むための力、希望であると私は思っています。

私がSDGsの教育について興味を持ったのは、中学2年から3年生にかけての不登校の経験からです。周りとの学習意欲の温度差に疎外感を感じたことから葛藤し、疑問を感じました。「教育が保障されているのに、なぜ不登校になる人が多いのだろう。」この疑問から日本や世界の教育について関心を持ちました。

私はまず識字率について調べました。識字率の世界平均は85.9%ですが、それを下回っているのは67カ国あります。識字率や教育の普及については、国同士だけでなく、地域で大きく異なる場合もあります。特に女性については、宗教的に弱い立場にいることや、通学可能であっても設備が十分でないことから、通学できない地域もあるようです。そのような環境で育った子供は、読み書きができないことから、社会サービスを受けられずに取り残されてしまいます。それを改善する取り組みとしてアフリカのニジェールで始まったJICAの「みんなの学校プロジェクト」があります。私は、このプロジェクト成功の鍵はSPAサイクルにあると考えました。「share」住民による課題共有のS・「planning」課題解決策をたてるP・「action」計画に基づく行動のA、そして国際協力による「assist」のA。このサイクルが回り出した結果、持続可能な学校を作ること成功したと分析します。教育は、「国を豊かにする未来への投資」と言われています。このことから私は、SPAサイクルを循環させることが、教育の普及に対する国際的な援助になると思いました。

また、教育を男女差別なく届けるために大きな壁となる「宗教上の問題」に立ち向かっている女性もいます。ノーベル平和賞を受賞したマララさんは、SNSを通じ教育の必要性と平和を訴えたところ、2012年10月9日にTTPにより襲撃されました。彼女は一命を取り止め回復し、2013年7月12日に国際連合本部で「銃弾では自身の行動を止められない」と演説を行い教育の重要性について訴えました。この日を国際連合は「マララデー」と名付け、「教育について考える日」としています。私は彼女の行動力に感銘を受けました。彼女の様な影響力はなくても、どれだけ小さくても行動することに意味があるのだと感じました。私にとって行動とは、自己対話と他者理解により自身の価値観を深め続けていくことであり、それが教育の本質だと思っています。教育はSDGsの中で一番効果が出にくいと言われています。しかし、このゴールを達成することでSDGsのほとんどが解決されると思います。なぜなら、教育が全ての基礎となるからです。私達が行動を起こさなければ、これから先も未来の状況を変えられません。

これらのことから国際機関の役割を考えました。発展途上国に対しては、子供や女性達への教育を続けていき、様々な理由で失われた住民たちと教育機関の信頼関係を再構築することが必要だと思います。また、先進国に対しては「質の高い教育」を目指すことが必要です。今まで積み上げてきた教育の礎の下、いじめや不登校などに対するフォローにも重点をおくことで、より良い環境で学べると思います。

ほんの少し世界に目を向けるだけで、色々な課題が見てきます。課題解決というゴールをみつけた時、私達に残されたことは、一歩ずつ進むことだけです。私は、これからも教育の意味や必要性を考え、日々の生活を大切にしていこうと思います。

# 国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト

## 最優秀賞【世界平和の実現に向けて、私ができること】

### 那覇市立安岡中学校 1年 與那嶺 源太



中国、上海。そこは僕が一歳半の時から住んでいる場所です。

父の仕事のため十一年暮らしていました。上海での生活といっても、家の中では普通に日本語で会話をして、学校も日系の幼稚園、日本人小学校に通っていたので、当然友達は日本人の子がほとんどでした。上海に住んでいた時は、自分が普通の日本人であることに疑問を持ちませんでした。

二〇二〇年二月、新型コロナウイルスが世界中に広がる少し前、僕たちは春節旅行の為グアムに向かって上海を出発しました。その後状況が悪化したので家族で東京に二週間滞在した後、父だけ上海に戻り、母と弟と僕は一時的に日本に残ることになりました。最終的に両親の実家があり、僕が生まれた沖縄で学校にも通うことが決まりました。

実際に沖縄の学校に通ってみると、中国から来たということで珍しがられたり、中国に対するイメージが悪い人からは、無視されたり、「中国」などと呼ばれ、どれも悪意がないことは分かっていたので、深く考えないようにしましたが、少し動揺はありました。

僕が通っていた上海日本人学校では、編入や転出する生徒が頻繁にいたため、受け入れる生徒たちも、相手を珍しがらず接していました。転入生が来た初日は学校探検したり、ドッジボールに誘ったりしていました。同じ日本人なのに住んでいる場所が違うだけで、こんなにも新しく来た人への接し方が違うのかと思いました。

そんなとき、僕にとって一番うれしかったのは、A君という友人が「中国の生活ってどんな感じだったの」と聞いてくれたことでした。A君にとっては何気ない質問だったと思いますが、僕は自分のことを理解しようとしてくれる姿勢を感じました。上海での生活について話すと「日本と全然変わらないんだ」という事を言ってくれたので、新しい環境での不安から解放された気持ちになりました。

違う価値観を持つ相手とどう関わるかと問われると難しいと感じるかもしれませんが、僕がA君との会話で感じたように実は簡単なことだと思います。つまり、相手が違う価値観を持っているように見えると多くの場合は、自分と関係がないと思って避けようとしたり、排除しようとしがちですが、相手に興味を持って知ろうとするだけで、その人を安心させることができると思います。

このことは世界平和にも繋がることだと思います。世界から争いや差別を減らすには、まずお互いのことに「興味」を持つことが大事だと思います。僕自身が中国から来たと言うだけで敬遠されたとき一番困ったことは、僕のことを理解してもらった機会がなかったことです。ニュースでもアメリカに長く住んでいる日本人が「ウイルスを広めた」と一方的に暴行されたと報道されていて悲しい気持ちになりました。このような争いは、相手のことに関心を持たず一方的な判断をしているため起こるのだと思います。

上海にいたとき、英語の先生が *interest* という英単語は「間」を意味する *inter* と「存在する」を意味する *esse* が語源になっていると説明しました。「興味」が人と人との間に存在することを表すそうです。この興味を持つことでコミュニケーションが始まり、争いを避けることができるのだと思います。僕の目の前に海外や別の地域から来た人がいれば、僕はA君のように彼らのことを知ろうと思います。そして彼らも次の人たちにそうして欲しいと思います。この「相手に興味を持つコミュニケーション」が連鎖すれば、異なる価値観を受け入れられて世界平和につながっていくと思います。その連鎖を止めないために、世界平和に向けてもまずできること、僕が次のA君になります。

## 優秀賞【SDGsが目指す「誰も取り残さない」社会を作るために、

### 自分には何ができるかー子ども達の笑顔のためにー】

### 糸満市立高嶺中学校 3年 石川 万智



「小学生時代の思い出は何？」と聞かれたら皆はなんと答えるだろうか。入学式、卒業式、運動会、学芸会、修学旅行、友達との思い出は数限りなくある。一つに絞ることはできない。しかし、私の思い出にはよく登場する物がある。それは「ランドセル」だ。中学生になったある日、私は、母からの提案でアフガニスタンの子供たちにランドセルをプレゼントするというプロジェクトに参加することになった。そのプロジェクトは、紛争に巻き込まれているアフガニスタンの子供たちのためにランドセルを、というコンセプトのもとランドセルメーカーが企画したものだ。しかし、小学生時代の思い出の詰まった桃色のランドセルを手放す、という決断は私にとって簡単なものではなかった。ランドセルを眺めていると小学生時代の思い出がよみがえるため、いつまでも手元に置いておきたい、という気持ちがあったからだ。しかし最終的には、アフガニスタンの子供たちに、私のようにランドセルに楽しい思い出をいっぱい詰め込みながら使ってもらいたい、そういう気持ちが強くなり、ランドセルを送る決意をした。

このプロジェクトに参加してしばらく経った頃、「SDGs」という言葉を、海洋教育の発表で訪れたOISTで初めて耳にした。最初は「難しそうだ」という印象を持ったが、同時にどのようなものか知りたくなった。家に帰って調べてみると、私もSDGsの取り組みに参加していることが分かった。ランドセルの寄付は、SDGsの十七個ある目標の中の「質の高い教育をみんなに」に当てはまる。一人でも出来る小さな活動を積み重ねることが、大きな成果へ繋がっているのだと知り、ランドセルを寄付したことを誇りに思えるようになった。

SDGsに興味を持った私は、世界の教育の状況について調べてみることにした。すると、開発途上国の初等教育就学率は、九一%だということが分かった。また、一九九〇年から二〇一五年にかけて、世界全体で若者の識字率は、八三%から九一%へと上昇していた。これらの高い水準は、過去の人々の努力の積み重ねで出来ている。しかし、これで終わりではないだろう。残り九%の人が取り残されている。いまだに五七〇〇万人の子供は学校へ通えていないという調査結果もあるのだ。今までの歩みを止めることなく、次の世代へバトンを渡すことが私たちの役目だ、と強く実感した瞬間だった。私が参加したランドセルの寄付は、「質の高い教育をみんなに」という目標のもとに行われたものだが、「教育」はなぜ大切なのだろうか。答えは、全ての国にとって医療や経済の発展はなくてはならないものだからだ。そして、その医療や経済を発展させるためには、学ばなければならない。知識を学ぶための環境がない、ということは、発展の可能性が失われるということだ。言い方を変えれば、環境を整えることで、新しい可能性を見つけることができるのだ。

世界の状況を見てみると、先進国の人々が幸せを得ている一方で、開発途上国の人々が取り残されているように感じることもある。このような現実から目を背けてはならない。犠牲の上に成り立つ幸福とは、どこか間違っている。絶えず変化する社会の中で、私たちは視野を広く持ち、地域や国内、世界へと様々なところに目を向け、皆が足並みをそろえていけるようしなければならない。一歩進んだ人が一歩遅れている人の手を取り、共に進んでいかなければならない。それは、小さな取り組みでもいいのだ。

No one will be left behind.

私のランドセルを嬉しそうに背負って、学校へ通っている子供の笑顔が見えた気がした。

# 【COVID-19外国人支援多言語翻訳プロジェクトに携わっている翻訳者をご紹介します】



COVID-19禍で生活に支障をきたしている外国人を支援するため、OIHFが5月から取り組んでいる「COVID-19外国人支援情報多言語翻訳プロジェクト」。様々な情報発信の翻訳に協力いただいている翻訳者の皆さんをご紹介しますとともに、これまでの活動を振り返ってみての感想を日本語と英語、そして担当している言語で寄せていただきました！

## 韓国語担当：杉村 絵美 さん



この度、翻訳の業務に関わらせていただき、翻訳をしながら外国人の皆様がどういった情報が必要とし、日本での暮らしの中で困っていることがどういうことなのかを知るよききっかけをいただいております。私の主人も外国ですが、私が日本人なので日本での暮らし、特に役所関連の手続きなどは困ったことは特にありませんが、もし私も外国人であれば、一体なにかからやればいいのか、なにが必要なのか、非常事態であるコロナ禍においてより一層わからず困ることが多かったらうなと感じています。外国人の立場に立ったサポートを続けるOIHFとお仕事をさせていただけることは、わたし自身のスキルアップはもちろんですが、今までなかなか持つことができなかった外国人目線で物事を考える貴重な機会をいただいていると感じています。

私自身は韓国での在住歴もありますので、韓国との比較になってしまうのですが、やはりまだまだ日本は臨機応変さの足りなさを感じています。韓国であればイレギュラーが生じて柔軟に対応してもらえたり、多文化家族(国際結婚や外国人家族)には国から、より金銭面的にもサポートがあったり、外国人在住者が多いため、心理相談や実際の役所や出入国管理事務所でも外国語での対応が可能なスタッフがいたりとまだまだ日本には足りない部分も多いのではないかと思います。これからの国際化社会に対応していくには、そういった柔軟さがもっと必要になってくるのではないかと思います。ぜひ、そういった面で貴財団が日本の中でも先を行く、先頭に立って牽引していける存在になってくれることを願っております。そして、わたしもそのサポーターとして引き続き関わらせていただきたいと思います。

이번에 번역 업무를 맡게 되어 번역을 하면서 외국인 여러분이 어떤 정보를 필요로 하고 일본 생활에서 어려움을 겪고 있는 게 어떤 것인지를 아는 좋은 계기가 되었습니다. 제 남편도 외국인이지만 제가 일본인이라 일본에서의 생활, 특히 관공서 관련 절차 등은 어려운 점은 특별히 없습니다만 만약 제가 외국인이라면 도대체 무엇부터 하면 되는지, 무엇이 필요한지, 비상 사태 인 코로나 재난에 더욱 몰라서 곤란이 많았겠다 것을 느끼고 있습니다. 외국인의 입장에서 지원을 계속 하는 OIHF 와 같이 일을 하는 것이 재 자신의 실력 향상은 물론, 지금까지 좀처럼 가질 수 없었던 외국인 시선으로 사물을 바라보는 귀중한 기회가 되었다고 생각하고 있습니다. 저는 한국에 거주한 적이 있어서 한국과 비교가 돼 버리는데 역시 아직 일본에는 임기응변 부족함도 느끼고 있습니다. 한국에 있으면 불규칙적으로 일이 발생하더라도 유연하게 대응해 줄 때가 많고 다문화 가족(국제 결혼과 외국인 가족)는 국가에서 더 많은 금전적인 지원이 있습니다. 외국인 거주자가 많아 심리 상담이나 실제 관공서나 출입국 관리 사무소에서 외국어 대응이 가능한 직원이 있는 등 아직 일본에서는 외국인을 위한 지원에 대해 부족한 부분도 많지 않을까 합니다. 앞으로 국제화 사회에 대응해 나가기 위하여 그런 유연성이 더 필요해지는 것이 아닐까 생각합니다. 꼭 그런 면에서 OIHF가 일본에서도 앞서가는 선두에 서서 이끌어 갈 존재가 되어 줄 것을 바라고 있습니다. 그리고 저도 그 지지자로 제기 할 수 있는 것을 최대한 도와 그리고 싶고 또 계속 서포트를 하고 싶다고 생각하고 있습니다.

Through this translation project, I was able to get a good opportunity to know what kind of information foreigners need and what they are having trouble with in their lives in Japan. My husband is also a foreigner, but since I am Japanese, I haven't had any problems living in Japan, especially the procedures related to government offices. If I was in a foreign country, however, I would feel that I would have had more troubles because I didn't know what to do or what I needed to do in the COVID-19 infection. Being able to work with OIHF, which continues to support foreigners, not only improves my own skills, but also gives me a valuable opportunity to think about things from a foreigner's perspective, which I have not been able to have until now. I feel that I have received it. I myself have a history of living in South Korea. It might be a comparison with South Korea, but I still feel that Japan is still lacking in flexibility. Even if irregularities occur in South Korea, for example, they will be able to respond flexibly, and multicultural families (international marriages and foreign families) will receive more financial support from the country. Since there are many foreign residents in South Korea, I think that there are many shortages in Japan, such as psychological counseling, actual government offices, and immigration offices that have staff who can speak foreign languages. I think that such flexibility will be needed more in order to respond to the internationalized society in the future. By all means, I hope that OIHF will become a leader in Japan in that respect. I also would like to continue to be involved as a supporter.

## 中国語担当：馬 会林 さん

今年の3月頃から、COVID-19に感染しないように、不要不急の外出を控えようといったアナウンスがあったように思います。その時、私は学生寮において外出自粛に備え、沢山の食料品を買いました。例えば、お米や小麦粉、パスタ、素麺などです。しかし、8月になってもまだ全ては食べきれていないです。引越しをするので、仕方なく友達に配りました。私は沢山の食料品を準備したので、食べ物に困りはしませんでした。ずっと寮にいるのは辛かったです。留学生として、授業とバイトがない時は、この社会との関係がなくなったように感じました。そこで私はインターネットでコロナに関するボランティア活動を探しました。



2月に沖縄県国際交流・人材育成財団主催の日本語弁論大会に参加してから、財団のFBをフォローしていました。ある日、財団の特別定額給付金についての中国語版を見て、私にも手伝えることがあると思いました。そこで、私は中国語に翻訳するお手伝いができますというメールを財団に送り、COVID-19翻訳チームに加わりました。

時は過ぎて未だCOVID-19は消えず、日常生活は元通りにはなりませんが、この翻訳のおかげで、私は外の世界と繋がりが持てました。翻訳するコンテンツを通じて、以前に何が起こったか、新しい政策は何か、問題が発生した場合に誰に助けを求めるべきかなどを知ることができました。おかげで、感染が拡大する中で不安になった私も、少しずつ落ち着くことができました。このような特殊な時期に、翻訳に参加させていただけて光栄です。この状況の1日も早い収束を願います、そして財団には、このような機会をいただけて感謝しています。

大概是从今年三四月份开始，就被要求尽量少外出，避免感染COVID-19。我买了很多的食材：米，面，意大利面，素面，罐头等等，准备呆在学校宿舍不出门。一直到8月份搬家都没有吃完，只好把带不走的食材分给了舍友。虽然准备了很多的食物，但是一直呆在宿舍真的很难受。作为琉球大学的留学生，如果平时不去上课打工的话，基本上跟这个社会的联系也就切断了。于是我就开始在网上查找疫情的相关信息，希望有机会能做一个志愿者。

二月份的时候我参加了冲绳县国际交流人才培养财团举办的日语演讲比赛，因而关注了该财团的Facebook。有一天我看见他们发布了关于领取特别补助金的中文版介绍，心想或许我可以帮忙。于是就给他们发了邮件说，我可以做志愿者翻译中文，我就这样加入了关于COVID-19翻译的大家庭里。虽然接下来的日子里，COVID-19并没有消失，日常生活也没有恢复，但是因为有了这份翻译，让我跟外界有了接触。通过翻译的内容，我可以比较早的知道发生了什么事情，有什么新的政策，如果遇到有困难应该向谁寻求帮助等等。这些让在疫情中不安的我变得安心很多。另外，在这样一个特殊的时期里，真的很荣幸能够参与COVID-19的翻译。希望疫情能够早点结束，也谢谢冲绳县国际交流人才培养财团给我的这次机会。

From around March of this year, I think there was an announcement to refrain from going out unnecessarily and urgently so as not to get infected with COVID-19. At that time, I was in the student dormitory and bought a lot of food in preparation for refraining from going out. For example, rice, flour, pasta, and noodles. However, I haven't eaten everything in August. I'm moving, so I gave it to my friends. I prepared a lot of groceries so I didn't have any problems with food, but it was hard to stay in the dormitory all the time. As an international student, I felt like I had no relationship with society when I had no lessons and part-time work. So I searched the internet for volunteer work on corona.

Since I participated in the Japanese speech contest hosted by the Okinawa International Exchange and Human Resource Development Foundation (OIHF) in February, I have been following the FB of the Foundation. One day I saw a Chinese version of the Foundation's special fixed benefits and thought I could help. So I sent an email to the Foundation to help me translate it into Chinese and joined the COVID-19 translation team.

COVID-19 will not disappear even if time goes by, and everyday life will not be restored, but thanks to this translation, I was able to connect to the outside world. Through the content I translate, I was able to find out what happened before, what the new policy was, who to seek help with in case of problems, etc. Thanks to this, I was worried as the infection spread, and I was able to calm down little by little. I am honored to be able to participate in translation at such a special time. We hope that this situation will settle as soon as possible, and we thank the Foundation for this opportunity



## ネパール語担当 Sanjiv Shrestha さん

私の名前はサンジブ・シュレスタと言います。私はネパール出身です。私は家族と一緒に沖縄に14年間住んでいます。琉球大学の大学院生として沖縄に来ました。現在、沖縄市のゴザ中学校で語学教師(ALT)をしています。沖縄の美しい自然と沖縄の人々のおかげで、母国にいるように感じます。

ご存知の通り、2020年の初めから全世界がCOVID-19の未曾有の困難に苦しんでおり、目下、我々はCOVID-19パンデミックによって引き起こされる予期せぬ事態の克服に取り組んでいます。世界中の人々に大きな被害を与えており、日本や沖縄の外国人も例外ではありません。感染症拡大により、外国人は言語の壁、失業、雇用状況、家族の不安、健康問題、生活費などの長期的な緊急事態における情報不足など、さまざまな課題や懸念に直面しています。これらの問題は、私を含むすべての外国人を緊張にさらしています。幸い私は元気で、家族を財政的に支えてきましたが、COVID-19により、学校は時々閉鎖され、通常の授業が行われないことがある中、子供を塾に通わせる必要があり、追加の出費がかさみました。さらに、月謝などの定期的な支払う塾や他のクラブの受講料を支払わなければなりません。

NPO、NGO、コミュニティセンター、ボランティアグループ、一部の寛大な人々のさまざまな組織や機関が、今年の非常に早い時期からこのCOVID-19に関する重要な情報を提供するために懸命に努力しています。しかし、私のような外国人の多くは、十分な日本語力を持っていないため、適切な情報を必要とする時に得ることができません。私は日本語が苦手なので、常に英語で情報を入手したいと思っています。正確な情報を手に入れることができれば、私にとって役立つだけでなく、ここ沖縄のネパール人コミュニティと共有するのに便利です。

COVID-19に関する情報を収集するためFacebookのようなSNSで情報を検索しているとき、幸いにも沖縄県国際交流・人材育成財団(OIHF)と繋がることができました。この組織は、沖縄に住んでいる外国人住民がよく理解できるように、COVID-19やその他の有用な問題に関する情報をさまざまな言語で提供していることがわかりました。

私は2020年4月から正式に任命され、OIHFのネパール語翻訳者として働いています。最近の公共問題や社会問題など、COVID-19に関するさまざまな有用な情報を翻訳することでネパール人コミュニティを支援する機会を与えてくれたこの組織に感謝しています。

この仕事の初日以来、私はすべての情報を簡略化されたネパール語で翻訳し、各ネパール人が正しく理解して正しい情報を得ることができるよう努力してきました。沖縄のネパール人がOIHFウェブサイトとその公式Facebookページを通じて得たすべての情報の恩恵を受けられることを願っています。

さまざまな質問や問題がある場合は、OIHFに連絡できます。OIHFではあなたが直面している問題や困難に対処するため、喜んで支援することでしょう。皆様どうぞ、安全に、また周囲の方々も安全にお過ごしください。ありがとうございました。

मेरो नाम संजिव श्रेष्ठ हो र म नेपाली नागरिक हुँ। विगत १४ वर्षदेखि म र मेरो परिवार ओकिनावामा बस्दै आइरहेका छौं। म सुरूमा ओकिनावामा University of the Ryukyus मा पढनलाई आएको थिए। हाल म कोजा जुनियर हाइस्कूल, ओकिनावा सिटीमा अंग्रेजी शिक्षकको रूपमा कार्यरत छु। ओकिनावा मलाई आफ्नो घरदेश जस्तै लाग्छ।

२०२० को सुरूवातसंगै नोवल कोरोनाको प्रकोपले सारा विश्व आहत छ। यस्तो परिस्थितिमा जापान अनि ओकिनावा कसरी अछुतो रहन सक्थ्यो र। COVID-19 को असरको फलस्वरूप, हामी बिदेशीलाई त झन भाषागत समस्या, पढाई अनि कामको समस्या, घरदेश र परदेश दुबैतिर परिवारको चिन्ता, दैनिक जिवनको लागि खर्चको चिन्ता आदि-इत्यादि ले धेरैलाई पिरोलिरहेको छ। ब्यक्तिगत रूपमा म र मेरो परिवार अहिले लम्पि पिरोलिएको छैन तर कोरोनाको कारणले अतिरिक्त आर्थिक भार चाँहि थपिएको छ। मेरो छोराछोरीको पढाई अनि स्वास्थ्यको चिन्ताले हरपल हामीलाई सताइरहेको हुन्छ।

ओकिनावामा बस्ने सबै बासिन्दाहरूलाई कोरोनाको असरबाट कम क्षति पुगोस भनेर प्रान्तीय सरकार, बिभिन्न संघ-संस्थाहरू, समाजसेवीहरू का साथै बिभिन्न मनकारी ब्यक्तिहरूले बिभिन्न सहयोग, उपयोगी सूचना संप्रेषण र सहयोग गरिरहेका छन। हामी बिदेशी नागरिकहरू मध्य धेरैलाई जापानी भाषामा दक्षता नभएको कारणले उपयोगी सूचना अनि जानकारी बाट बंचित भई बिभिन्न समस्याहरूसंग जुध्नुपरेका कथा-ब्यथाहरू हामीबिच धेरै रहेको पाइन्छ। म आफैपनि जापानी भाषा पढन-लेख्न सक्षम नभएकोले सूचना/जानकारीहरू नेपाली वा अंग्रेजी भाषामा पनि भैदिएको भए कति सजिलो हुन्थ्यो भनेर सोचिरहेको हुन्थे।

कोरोना सम्बन्धी सामाजिक संजाल फेसबुक मार्फत उपयोगी जानकारी संकलन गर्ने क्रममा OKINAWA INTERNATIONAL EXCHANGE & HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT FOUNDATION (OIHF) संग म जोडिन पुगे। OIHF ले FACEBOOK र आफ्नो वेबसाइट मार्फत विभिन्न उपयोगी सूचना र जानकारी हरू बिभिन्न भाषामा संप्रेषण गर्ने गरेको छ।

अप्रैल २०२० देखि कोरोना सम्बन्धि र अरू समसामयिक उपयोगी जानकारीहरू नेपाली भाषामा पनि संप्रेषण गर्नको लागि OIHF ले मलाई अफिसियल नेपाली भाषाको अनुबादकको जिम्मेवारी दिएको छ। र यो जिम्मेवारी इमान्दारीपूर्वक निर्वाह गर्दै ओकिनावामा बस्ने नेपाली समुदायलाई नेपाली सरल भाषामा संप्रेषण गरिएका सूचना/ जानकारीहरूले सहयोग पुगोस भन्ने हेतुले आफ्नो ब्यस्त समयको बावजूद पनि हरसम्भव कोशिश गरिरहेको छु। OIHF को फेसबुक पेज अनि वेबसाइट बाट नेपाली भाषामा संप्रेषण गरिएका बिभिन्न सूचना जानकारी प्राप्त गरी ओकिनावाबासी नेपालीहरू लाभान्वित हुनुभएको होला भन्ने आशा गरेको छु।

तपाईंहरूलाई कुनैपनि कुराको जानकारी अथवा सहयोगको आवश्यकता परे सिधै OIHF मा सम्पर्क गर्न सक्नुहुन्छ। धन्यवाद।



My name is Sanjiv Shrestha. I am originally from Nepal. I have been living in Okinawa for 14 years along with my family. I came to Okinawa as a graduate student at University of Ryukyus. Currently, I work as a language teacher (ALT) at Koza Junior High School in Okinawa city. I feel like I'm in my home country just because of Okinawa's beautiful nature and Okinawan people.

As we all know that the whole world has been suffering from the Novel Corona Virus since the beginning of this year 2020. Since then, we all have been dealing with the unforeseen challenges caused by the COVID-19 pandemic. It has taken a heavy toll on people all across the world and foreign residents in Japan & Okinawa are no exception. Foreign residents face a range of challenges and concerns as a result of the pandemic such as lack of information under the prolonged emergency due to language barriers, job loss, unemployment situation, anxiety about both family here and back in country, health issues, daily expenses etc. These problems have put all foreigners including me under strain. Fortunately, I have been doing well and supporting my family financially but due to COVID-19, our extra expenses hiked up as we have to send our kid to cram school since schools are closed time to time and hampered in regular lessons. Moreover, we have to pay regular fees to save the spots in cram school as well as different clubs.

Different organizations and agencies like NPOs, NGOs, community centers, volunteer groups and some generous people have been trying hard to provide the significant information regarding this COVID-19 from the very early period of this year. But many foreigners like me are depriving from the proper information due to lack of proper Japanese language skill. As I'm not good at Japanese, I always wish to get information in English, so that I can get the correct information which will be helpful for me as well as it is convenient to share with my Nepali community here in Okinawa.

While searching information in social media like Facebook, in order to collect information regarding COVID-19, fortunately I was able to connect with OKINAWA INTERNATIONAL EXCHANGE AND HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT FOUNDATION (OIHF). I found that this organization has been providing information about COVID-19 and other useful issues in different languages to help foreign residents living in Okinawa to understand well.

Since April 2020, I have been officially appointed and working as a Nepali language translator for OIHF. I'm grateful to this organization which gave me an opportunity to help Nepali community through translating different useful information regarding COVID-19 including recent public & social issues. Since the very first day of this job, I have been working hard to translate each and every information in a simplified Nepali language so that each Nepali can understand well and get the correct information. I hope that Nepalese in Okinawa might be benefited by all the information they get through OIHF website and its official Facebook page. If you have any queries and issues in different matters, you can contact to OIHF. They will be very glad to address your problems and issues. Be safe and make others safe. Thank you

# ベトナム語担当 NGUYEN NHIEEN DO AN さん



みなさん、こんにちは。ベトナム語翻訳を担当させていただいているグエン・ド・アン・ニエンと申します。この数年沖縄ではベトナム人が急増している中、私にはできそうなことは何かと思っているところ、OIHFの存在を知りました。そして、今年5月からご依頼があって、財団の多言語での情報発信に協力させていただいています。また、財団が様々な形で外国人へのサポートも行っていると知って、自分も少しでも協力していくと強く思っています。コロナ禍の中で、辛い思いをしている人、特に故郷と離れ、異国で一生懸命頑張っている外国人、たくさんいるでしょう。少しでも、財団と力を合わせてみなさんの役に立ちたいと思っています。コロナ禍が一刻でも早く収束になりますように、お祈りいたします。そして、一日でも早く通常生活に戻ることができるよう、ぜひ皆でまず新しい生活様式を取り組みましょう。

Xin chào mọi người. Tôi là Nguyễn Đỗ An Nhiên, phụ trách biên dịch tiếng Việt.

Những năm gần đây, trong bối cảnh người Việt ở Okinawa tăng lên nhiều, tôi đã tự hỏi mình có thể làm được gì không. Đúng lúc đó tôi biết về Quỹ OIHF. Và từ tháng 5 năm nay, tôi có cơ hội hợp tác với Quỹ OIHF trong việc truyền tải thông tin bằng nhiều ngôn ngữ. Ngoài ra, khi biết Quỹ cũng tiến hành hỗ trợ cho người nước ngoài bằng nhiều hình thức khác nhau, tôi nghĩ bản thân mình cũng phải hợp tác dù chỉ một chút sức lực. Trong vòng xoáy Covid-19, hẳn là có rất nhiều người, đặc biệt là người nước ngoài đang xa quê hương, ra sức cố gắng ở một đất nước xa lạ, đang gặp phải khó khăn. Dù chỉ một chút, tôi cũng muốn hợp sức với Quỹ OIHF để giúp ích cho mọi người. Mong cho vòng xoáy Covid-19 sớm kết thúc dù chỉ một khắc. Và chúng ta, trước tiên, hãy cùng nhau nỗ lực thực hiện trạng thái bình thường mới để có thể quay lại cuộc sống thường nhật càng sớm càng tốt nhé.

Hello everyone. My name is NGUYEN NHIEEN DO AN. I am in charge of Vietnamese translation. While the number of Vietnamese people in Okinawa has been increasing rapidly in recent years, I was wondering what I could do. At that time, I learned about OIHF.

Since May in this year, I have been requested to cooperate with the OIHF multilingual information dissemination. Also, knowing that the OIHF also provides support to foreigners in various ways, I strongly feel that I will cooperate as much as possible.

There will be a lot of people who are suffering from COVID-19, especially foreigners who are working hard in a foreign country, away from their hometown.

I would like to work with the OIHF to help you even a little. I hope that the COVID-19 Era will converge as soon as possible. And let's all work together on a new lifestyle so that we can return to normal life as soon as possible.

# スペイン語担当

## Roser Romero Costa さん



こんにちは。私はスペイン人で、Roserと申します。私は日本の文化が好きで、中学生時代から日本語を勉強してきました。2014年に琉球大学へ留学する機会があり、それ以来沖縄に住み、生活しています。皆さんもご存じのとおり、COVID-19は我々に大きな影響を与えました。特にこのパンデミックにおいて最初の数か月間は状況を理解することが難しく、どの様に行動するのか明確な答えを見つけることは難しいものでした。感染が急増している期間は外出することを怖いと感じることがあります。

スーパーや人の多い場所にいると、緊張してしまう瞬間さえありました。常にCOVID-19への感染対策に細心の注意を払って行動するように心がけました。

また、国際的なニュースをよく見ました。特に母国であるスペインにおいて、非常に多くの方がコロナによって亡くなっていることも気がかりでした。私の文化ではハグをする習慣があり、また挨拶で頬にキスをするのが当たり前です。スペインやイタリアなどの地中海沿岸国、ペルーやメキシコなどのラテンアメリカの国々でソーシャルディスタンス（社会的距離）をとることは非常に難しいことだと感じました。

パンデミックの最中、私は遠く離れた家族と何度もビデオ通話をしました。実際、家族は11月に沖縄に来る予定でしたが、スペインへ帰国することが不可能になるのではないかと、あるいは空港で待機を命じられるのではないかとという恐れがあったので、この旅行を中止しました。家族と長く会えずに寂しいですが、もうしばらく我慢が必要です。

### ・OIHFのサポートについて

OIHFによる在住外国人支援の多言語情報、例えば医療通訳や弁護士による相談、「ニューノーマル」における就職活動の支援やDV対策サポートにより、コロナ禍においてどのような問題があるのかを理解することができました。

OIHFは、我々一人ではないと感じさせ、沖縄県や日本政府が我々の事を心配してくれていることを教えてくれます。私は沖縄に6年間住んでいますが、スペイン語の情報はほとんど見たことがありません。また、すべてのスペイン語話者が英語や日本語等をよく理解しているわけではありません。そのため、OIHFによる多言語情報の発信は良いアイデアだと思いました。私もまた、この翻訳業務によって沖縄に住んでいるたくさんの方々のスペイン語話者を支援していると感じます。どのような支援が提供されているのか正しく情報を届ける事と、内容をより明確に表現できるよう心掛けて翻訳をしています。

OIHFのHPをご覧ください。そこでCOVID-19に関する様々な問題とその支援についての情報を提供します

<https://kokusai.oihf.or.jp/covid-19/>。どうぞよろしくお祈りいたします。

Hola, me llamo Roser y soy española. Siempre me ha gustado la cultura japonesa y he estudiado japonés desde secundaria. En 2014 tuve la oportunidad de hacer un intercambio de estudios en la Universidad de Ryukyus y desde entonces he estado estudiando y trabajando en Okinawa. El COVID-19 nos ha afectado a todos.

Sobre todo, en los primeros meses de la pandemia fue muy difícil entender la situación y no sabía claramente como actuar ya que nos pilló desprevenidos.

Durante los picos de infección tenía bastante miedo a salir de casa. He sufrido momentos de tensión cuando he estado en supermercados o en lugares donde había aglomeraciones. Constantemente intento actuar con el mayor cuidado para prevenir la infección por COVID-19.

También, estuve muy pendiente de las noticias internacionales, especialmente en el caso de España ya que ha habido y sigue habiendo un gran número de muertos. En mi cultura, es costumbre dar abrazos y es normal saludar con besos, y por ello, creo que ha sido muy difícil poner en práctica el distanciamiento social en países mediterráneos como España e Italia, y países latinoamericanos como Perú, México, etc.

Durante la pandemia he realizado muchas videollamadas con mi familia, de hecho, teníamos planeado que vinieran a verme en noviembre en Okinawa pero al final hemos cancelado el viaje por miedo a que no puedan volver a España o que los retengan en algún aeropuerto.

Hace mucho que no veo a mi familia y les echo de menos, pero necesito tener paciencia por un tiempo.

#### • Acerca del soporte de OIHF

La información multilingüe de OIHF para el apoyo de residentes extranjeros me ha servido para conocer las ayudas que proporcionan como la interpretación médica, asistencia de un abogado, soporte en caso de violencia doméstica, ayuda para encontrar trabajo, u otros problemas que pueden enfrentar los extranjeros en Okinawa durante la "nueva normalidad".

OIHF nos hace sentir que no estamos solos y que el gobierno se preocupa por nosotros. Llevo 6 años en Okinawa pero pocas veces he visto información en castellano. No todos los hispanohablantes entendemos bien el inglés, japonés u otras lenguas. Por eso me pareció muy buena idea poder traducir para OIHF. Siento que traduciendo estoy ayudando a muchos hispanohablantes que viven en Okinawa para informarse bien de cuales son las ayudas que nos ofrecen y que puedan entender el contenido de una manera más clara.

Os invito a visitar la página web de OIHF <https://kokusai.oihf.or.jp/covid-19/> que ofrece información acerca de los problemas que podemos enfrentar durante el COVID-19 y de sus ayudas. Saludos cordiales.

Hello. I am Roser from Spain. I like Japanese culture and have studied Japanese since I was in middle school. I had the opportunity to study abroad at the University of the Ryukyus in 2014 and have lived in Okinawa ever since.

As you all know, COVID-19 has had a great impact on us. Especially during the first few months of this pandemic, it was difficult to understand the situation and to find a clear answer on how to behave. I've been afraid to go out during periods of rapid infection. There were even moments when I was nervous when I was in a supermarket or a crowded place. I always tried to act with the utmost care to prevent infection with COVID-19.

I also often watched international news. I was also concerned that so many people had died due to COVID-19; especially in their native Spain. In my culture, it is customary to hug and to kiss my cheeks for greetings. I find it very difficult to take a social distance in Mediterranean countries such as Spain and Italy, and Latin American countries such as Peru and Mexico.

During the pandemic, I had many video calls with a distant family. In fact, my family was planning to come to Okinawa in November, but I was afraid that it would be impossible to return to Spain, or I might be ordered to wait at the airport, so this trip was canceled. I miss my family for a long time, but I need patience for a while.

#### • About OIHF support

OIHF's multilingual information for foreign residents' support, such as medical interpreters and counseling by lawyers, COVID employment support, and DV countermeasure support, helped me understand what kind of problems there are in the pandemic situation. OIHF makes us feel that we are not alone and tells us that Okinawa Prefecture and the Japanese government are concerned about us. I have lived in Okinawa for 6 years and haven't seen much information in Spanish. Also, not all Spanish speakers have a good understanding of English and Japanese. Therefore, I thought that the transmission of multilingual information by OIHF was a good idea. I also feel that this translation work is supporting many Spanish speakers living in Okinawa. I am translating so that I can deliver the correct information about what kind of support is provided and express the contents more clearly.

Please see the OIHF website. Therefore, we will provide information on various issues and support for COVID-19 <https://kokusai.oihf.or.jp/covid-19/>. Thank you very much



# 「医療通訳ボランティア養成講座」を実施しました

新型コロナウイルス感染症拡大のため、7月から9月にかけて言語別に「医療通訳ボランティア養成講座」を対面またはウェブ会議システム（ZOOM）で実施し、22名（英語：9名 中国語：10名 韓国語：1名 スペイン語：2名）が参加しました。各言語とも、主に「医療通訳者としての倫理観」を重点的に学びました。今回とても印象的だったのが、中国語講座の受講者のほとんどが、外国人の皆さんだったので「日本の医療制度」や「病院での受付から薬剤処方までの一連の手順」なども確認が行われました。また、通訳する際の「言葉の選び方」や「ノートテイキング」など、どうすれば相手にわかりやすく伝えることができるのかなど、実際に様々なロールプレイを通して学びました。

参加者からは、「母語で練習しても、長い文書の場合はポイントを聞き取れなかったりする。自分が意味を理解しても、正しい訳が出てこないこともあり、これからたくさん練習したい。」や「今回の演習で自分の足りない部分やスキルを見出すことができた。用語集を作成したり、練習を重ねていきたい」などの感想が寄せられました。

これからは現場に出て、医療通訳者として活動することになり、緊張すると思いますが、今後の皆さんの活躍が楽しみです。



## The Second English and Cross-culture Seminar

沖縄科学技術大学院大学（OIST）の外国人研究者や職員と、あるテーマに沿って英語でディスカッションをしたり、また多角的に物事を考え日本語で意見する力を養うためのセミナーを8月1日（土）にウェブ会議システム（ZOOM）で実施し、高校生や大学生14名が参加しました。

午前中に行われた英語のセミナーでは、「COVID-19と自粛ポリス」をテーマにした英字新聞を基に英語で討議を行いました。参加者1人につき、ほぼ1人のインストラクターが割り当てられていたため、参加者は否が応でも英語で話さなければならない環境に置かれていました。レソト共和国やインド、ロシアやペルーなど様々な国が母国であるインストラクターから、今回「自粛ポリス」が日本で社会問題になっていることに関して多くの驚きの声があり、COVID-19禍における各国の状況について参加者と英語で共有しました。

参加者からは、「英語を勉強しようという気持ちが増えました。他の人の発表を聞いて自分の発言力を高めたいと思った」や「とてもいい雰囲気の中セミナーに参加できて良かった。事前課題のおかげで話す内容について調べたり意見することができて良かった」、「緊張したがいい経験ができた！」との感想が寄せられました。

本セミナーでは、様々な国籍の外国人と英語でコミュニケーションを図ることができ、次回は12月を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

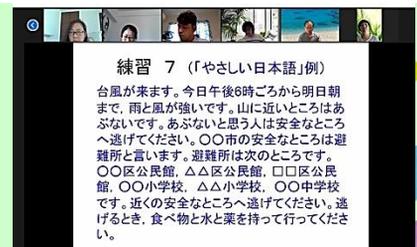


## 「災害時外国人支援サポータースキルアップセミナー」を開催

今回初めての試みとして、現在OIHfに登録がある201名の「災害時外国人支援サポーター」を対象に、「やさしい日本語」で災害時に情報発信できるスキルの向上を図るためのセミナーをウェブ会議システム（ZOOM）を用いて、8月29日（土）に実施しました。セミナーには京都工芸繊維大学 名誉教授の水野義道氏を招聘し、20名が参加しました。

セミナーでは、「やさしい日本語」の手順を確認したあと、参加者には「台風時の防災無線の案文」や「災害救助法適用地域における運転免許証の有効期限の延長」、「罹災証明書発行に係る手続き」など、複雑かつ多岐にわたる演習に取り組んでもらいました。

参加者からは、「ただシンプルにするだけでなく、相手の立場に立って丁寧に伝える大切さを再確認できた。」や「今後自身の仕事にも役立てることができるよう日頃から意識して取り入れ慣れていきたいと思う」などのコメントが多く寄せられました。また「日頃から自分自身で防災意識を向上していかなければならずモチベーション維持が難しい」という意見もあり、今後においてもサポーターの皆さんの意識向上を図れるようなセミナーを企画していきたいと思えます。





# OIHF主催イベント情報

—多くの皆様のご参加をお待ちしています—

ソーシャルディスタンスを保って  
**避難所体験**  
11/7(土)  
9:30~13:30  
参加無料 入退場自由

**作** 災害時お役立ちグッズ  
・新聞スリッパ  
・ダンボールベッド  
・風入ホンをリュックのサックなど  
周りにあるもので実際に作ってみよう!

**学** 災害時に役立つ実践講座  
・避難所ってどんな所?  
・防災豆知識って!?  
・非常用持ち出し袋の中身について  
災害に備えて、防災について学ぼう!

**非常食** 非常食を食べてみよう!  
・炊き出し調理体験  
・アルファ米の配布  
・非常食って本当はおいしいの!?  
非常食に親しみ、配給について考えてみよう!

ご来場の際は、マスクの着用をお願いいたします!

**会場** 浦添市立 仲西小学校 体育館  
浦添市屋富祖2丁目32-1

**対象** 高齢者やお子様、ペット同伴など、どなたでもぜひ、ご参加下さい!

事前の申込みは不要です。直接会場へお越し下さい!

【主催】(公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団  
TEL 098-942-9215 HP <https://kokusai.oihf.or.jp>

イベントの詳細は、HPをご覧ください!

【共催】 浦添市

## 災害時の避難所を体験してみませんか!?

「避難訓練」はよく行われますが、実際の避難所がどのようなものなのか体験できます。当日は、「災害時のお役立ちグッズ」の試作や段ボールベッドの設置、また非常用持ち出し袋の中身として何を準備すればいいのかなど、災害時に必要となるものを実際に作ったり見たりすることができます。体の不自由な方やお年寄り、またお子さまやペットとの同伴など、どなたでもご参加いただけます! 避難所を事前に体験することで災害時に役立ちます。ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- 日時: 11月7日(土) 9:30~13:30
- 場所: 浦添市立仲西小学校 体育館 (浦添市屋富祖2-32-1)

**当日は会場出入り自由です!**  
**非常食も無料で配布します!**

## 災害時外国人支援サポーター養成講座@宮古島

島嶼県沖縄の地域防災力を高め、大規模災害時にOIHFが開設する「多言語支援センター」と協力して、外国人の支援を担うことができる人材の育成を行います。

全3回受講された方は、当財団の「災害時外国人支援サポーター」に認定します。すでに県内では201名が修了登録しています。講座を通して「防災・減災」について考えてみませんか?

- 日程:
- 第1回 12月4日(金) 13:00~17:00
- 第2回 12月5日(土) 09:15~17:00
- 第3回 12月6日(日) 09:15~12:30

■ 場所: 宮古島未来創造センター (宮古島市平良東仲宗根8 0 7)

## 災害時外国人支援サポーター養成講座@宮古島 受講者募集



**目的** 「防災・減災」に対する意識を高め、島嶼県沖縄の地域防災力の向上を目指し、災害時に外国人に寄り添えるサポーターを育成します。

**定員** 20名程度

**実施場所** 未来創造センター  
宮古島市平良東仲宗根807番地

**募集対象者**

- ☑ 島嶼県沖縄の地域防災力の向上、外国人支援や「防災・減災」に興味がある方
- ☑ 全3回の講座に参加できる方等

詳細は募集要項でご確認ください!

**講座修了認定**

全講座受講者を「災害時外国人支援サポーター」として認定します。

**募集期間等** 11月11日(水)

- 10月1日(木) ~ 11月11日(水)
- 応募先着順により定員に達し次第募集を締切
- 講座は無料! 講座の内容及び応募方法等詳細はHP!

主催: (公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団 国際交流課  
TEL: 098-942-9215 HP: <https://kokusai.oihf.or.jp> FB: <http://www.facebook.com/oihf60>

語学力は問いません。どなたでもお申し込みいただけます!

## Withコロナ時代 新たな多文化共生の地域づくりセミナー

参加無料

応募先着

新型コロナウイルス感染症拡大により新しい生活様式の導入や行政から発出される様々な要請等により、我々の生活は一変しました。そのような中、在住外国人は感染症防止に関して正しい情報に辿り着くことができない、行政の複雑な支援策の煩雑な手続き等により必要とする支援を受けられなかったりなど、コロナ禍の中でより厳しい困難を強いられるケースが散見されます。Withコロナ時代において、誰もが暮らしやすい持続可能な地域を創出する「新たな多文化共生の地域づくり」に必要なこととして考えてみます。

**講師** 田村 太郎 氏  
(一財)ダイバーシティ研究所 代表理事  
総務省が2006年3月に発表した「多文化共生推進プラン」の策定に携わるなど、地域における多文化共生の推進に長年関わる。復興庁復興推進委員、大阪大学客員准教授、明治大学大学院兼任講師。

**対象者**

- 住民サービスや国際交流施策等に携わる自治体職員
- 外国人を受け入れている企業や学校関係者
- その他、趣向に賛同する一般の方など

**日程** 2020年11月18日(水)

**時間** 14:00~16:30

**会場** ウェブ会議システム (ZOOM)

**定員** 40名程度 参加無料

**申請方法**

- HP (<https://kokusai.oihf.or.jp>)
- またはQRコードから行うことができます。
- 応募先着順とし、正定員に達し次第、募集を締切します。

主催: (公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団 国際交流課 大・総務課  
TEL 098-942-9215 HP <https://kokusai.oihf.or.jp>

## Withコロナ時代新たな多文化共生の地域づくりセミナー

新型コロナウイルス感染症拡大により「新しい生活様式」の導入や行政から発出される様々な要請等により、我々の生活は一変しました。そのような中、在住外国人は感染症防止に関して正しい情報に辿り着くことができなかつたり、行政の複雑な支援策の煩雑な手続き等により、必要とする支援を受けられなかったりなど、コロナ禍の中でより厳しい困難を強いられるケースが散見されます。

Withコロナ時代において、誰もが暮らしやすい持続可能な地域を創出する「新たな多文化共生の地域づくり」に必要なこととはどのようなことなのかについて、セミナーを通して考えます。

- 日時: 11月18日(水) 14:00~16:30
- 場所: ウェブ会議システム (ZOOM)

**外国人との共生について、身近なことから考えてみませんか!**

# OIHFでは様々な外国人支援に取り組んでいます

## COVID-19多言語ポータルを開設

OIHFでは、COVID-19に関する情報を随時9言語で掲載し、在住外国人の支援を行っています。また、生活に支障をきたしている外国人を支援するため、外国人が医療機関を受診する際の医療通訳者をOIHFが経費を負担し、無料で派遣したり、外国人を支援する団体に助成金（最大10万円）を支給することで、COVID-19禍における多文化共生を推進しているところです。詳しくは、「COVID-19多言語ポータル」をご覧ください。



<https://kokusai.oihf.or.jp/covid-19/>



## 相談窓口を開設しています！

外国人が地域住民として直面する様々な問題について、日常的に相談できる窓口を開設しています。多言語による生活相談や、沖縄弁護士会との連携により、在住外国人の生活面や在留資格、労働面等を専門的に支援するための法律相談会を必要に応じて実施しています。

COVID-19に伴う雇止めや在留期限の延長に関することなど、多様な相談が寄せられ、対応しています。些細なことでも結構ですので、困ったことがありましたら、お気軽にご相談下さい。対面や電話、メールはもちろん、FBのメッセージでも受け付けています！



## 沖縄県内国際交流団体イベント情報

### おきなわ国際協力・交流フェスティバル2020（オンライン） ～SDGs沖縄発みんなの取り組み～

国際協力・交流に対する理解促進を目的に、フェスティバルを開催！今年は新型コロナの状況を踏まえ、ライブ配信によるオンラインイベントと、国際協力団体等によるデジタルコンテンツの掲載を中心に実施。詳細は「JICA沖縄 フェス」で検索！



開催場所：JICA沖縄 フェス専用HP上 開催日時：11月14日（土）、15日（日）



お問い合わせ：JICA沖縄 098-876-6000

# 新型コロナウイルス禍と災害時外国人セミナーを実施しました！



新型コロナ禍と災害時において地域に住まう外国人や外国人観光客はどのようなことに困っているのか、共通する外国人の支援のポイント等をまとめたセミナーを去る9月17日（木）に沖縄産業支援センターで開催し、25名が参加しました。

セミナーでは、OIHFが5月から英語・中国語・韓国語・スペイン語・ネパール語・ベトナム語等7言語により行ってきた「COVID-19外国人支援特別対応」を通して、外国人が「災害時」と「コロナ禍」に直面する、類似する外国人の困難である「受け取る情報量や情報理解の格差」や「必要とするときに支援を受けられない」ことなどについて、生活再建や帰国支援等の事例に基づき説明しました。それらの困難は大規模災害時の特に「復興期」に共通するものであり、最規模災害時に支援に結びつけるためのツール「オンライン避難者登録フォーム」の話へとつなげて、お話をしました。本フォームは、通常の避難者カードをオンライン化し、被災した外国人の情報を集約することで、生活再建や帰国支援につなげていくためにOIHFが開発しました。

参加者からは、「資料を含め在住外国人のこと、災害時のための支援について理解を深めることができました。」「今後の相談業務の中で支援に役立てたいと思います。」「（外国人参加者より）在留資格の内容を詳しく知ることができてよかった。」「サポーターが寄り添いながら入力する「オンライン避難者登録フォーム」があることを知って今後活用したいと思いました。」「在住外国人の方がどんなことで困っているのか、具体的な相談事例が知れて良かった。」などの感想が寄せられました。

OIHFでは引き続き島嶼県沖縄の地域防災力を高めるためのセミナーを開催していきたいと思っております。

## 【皆様の支援に感謝！～賛助会員募集～】

（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団（略称「OIHF」）は、本県の多文化共生社会の推進に寄与し、振興発展を担う人材育成事業や、国際性豊かな活力ある沖縄づくりを目指し、国際交流・協力事業を推進しております。当財団の趣旨や活動に賛同し、活動を支援していただき、賛助会員を募集しております。沖縄県国際交流・人材育成財団の事業は会員の皆様の支援によって支えられています。新型コロナウイルス禍の中、誠に恐縮ではございますが、皆様のご協力をお願いいたします。

【年会費】個人：3,000円 団体：10,000円

★お申し込み・お問い合わせは国際交流課まで★TEL:098-942-9215 FAX:098-942-9220



うちなーんちゅの旅窓  
International Travel Service  
株式会社 国際旅行社



その他法人賛助会員様： 沖縄ハワイ協会 沖縄ツーリスト 沖縄県商工会連合会  
パシフィックホテル沖縄 沖縄市国際交流協会